

第20回 多可町子ども・子育て会議 記録

日時	令和元年10月29日（火） 15:00～17:20
場所	多可町役場 特別会議室
参加者	<p>●委員 出席：鈴木会長、木俣副会長、安平委員、藤田委員、門脇委員 荻野委員、高橋委員、清水谷委員、藤本委員、原委員 日下部委員、中川委員、高見委員、岡本委員 欠席：岸本委員</p> <p>●事務局 岸原教育長、こども未来課 石井課長、市位副課長</p>
会議内容	<p>1. 開会 2. 会長あいさつ 3. 協議事項 1) 一時預かり事業（幼稚園型）料金改正（案）について 2) 第二期量の見込み・確保方策について 3) 第二期子ども・子育て支援事業計画（令和2年度～6年度）（素案）について 4) その他 4. その他 5. 閉会</p>
資料	・第20回多可町子ども・子育て会議資料

1. 開会

2. 会長あいさつ

みなさんこんにちは。お忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。今回もいろいろな資料があり、読んでいただいて難しいところもあったこととは思いますが、ご検討いただきたいと思いますので、お願いします。

3. 協議事項

1) 一時預かり事業（幼稚園型）料金改正（案）について

【事務局】別紙により概要説明

町内のすべての保育施設が平成31年度から民間になりましたので、令和2年度から一時預かり事業、延長保育事業の利用料金につきましては、各園で設定いた

だくことの提案をさせていただきます。現在、町がお示している利用料から著しく差異が生じないことを十分お含みいただき、各園が利用料を設定いただきたいのが町の思いでもありますし、おそらく、利用される保護者の方の思いもそうであると思います。入所説明会でも保護者の方にお示ししていますので、できる限りそれが担保されることが各園で決定される上で重要ではないかと思ひます。

【会長】委員の皆様ご意見はございますか。意見なし。協議事項1)は、全員賛成で承認。続きまして、2)第二期量の見込み・確保方策について事務局の説明をお願いします。

【事務局】別紙により説明

【会長】入所児童については、現在よりそんなに減少せず入所してくたらいかなと思ひます。量の確保・方策ということでこれぐらいの現状で推移すればいいかなと思ひます。よほど0、1、2歳児さんの入所が増加しない限り、量の確保は大丈夫かなと思ひます。他、何かこのあたりでご質問等ありますでしょうか。園のほうとしてもだいたいこのあたりの予想でしょうか。来年度の入所申込を見てということになりますね。

【事務局】はい。早ければ11月中に集計ができ、実際の数字がわかります。この計画の県への報告期限が10月中ですので、この計画で県へ提出させていただきます。

【会長】量の話になりますと、数字なのでちょっとわかりにくいところもありますが、現在の計画では量の確保はできるということで進めていただくことでご理解をお願いします。次に4ページから6ページについて事務局より説明をお願いします。

【事務局】子ども・子育て支援事業計画の量の見込・確保方策について事務局から説明。訂正箇所2箇所あり。(10)養育支援訪問事業 実施機関 多可町健康課を多可町こども未来課に訂正。(11)子育て短期支援事業 実施体制 を2020年の2名を42名 2021年の2名を40名 2022年の2名を38名 2023年の2名を36名 2024年の2名を34名に訂正。

【会長】子ども・子育て支援事業計画の量の見込・確保方策について事務局から説明がありました。それぞれの事業については、量の確保ができています。皆さん何かご意見ありませんか。

【委員】特になし。

【会長】特に意見がないようですので、子ども・子育て支援事業計画の量の見込・確保方策についてはこの計画で進めていただくことでお願いします。

続きまして、第二期子ども・子育て支援事業計画(素案)について、事務局より説明をお願いします。

【事務局】事務局から第二期子ども・子育て支援事業計画(素案)について説明。

【会長】今、説明があった16ページまでの説明の中で何かご意見はありますか。

【事務局】ニーズ調査の中で、遊び場が遠い。とありますが、何か思われることはありま

すか。

【会長】遊び場がない。公園がない。そういうことではないですか。

【委員】あまり外で遊ぶ子はいない。家の中でゲームをしているか、学校で児童が集まりゲームをしているのを見かけます。

【事務局】集落の公園に遊具を設置するのもお金がかかり、集落の財政も厳しい中では難しいのではないのでしょうか。また、遊具で遊んでいて、他の地域ではけがされた事例もありますので、このようなことから、なかなか、集落での設置は難しい状況だと思います。

【委員】はい。そういうことは、あると思います。

【副会長】今の子どもは遊ぶ力が少ない。例えば、昔はそこらへんの草や花でも遊ぶことができていたと思うのですが、そんなものには無感心。それこそ、さっきのお話ではないですが、ゲームにはしってしまう。ちょうど今ごろですと枝豆とかがあると思うのですが、昔はそういうもので遊べていましたが、今の子どもはそういう力がない。行政に遊び場や遊具のことを言うのではなしに、子どもに遊ぶ力を育ててやる。例えば、キッズランドかみでありましたら、祖父母と一緒に自然の中で遊びます。1日だけですけどそういう交流会があります。子どもに遊ぶ力をつけてあげることが大事なと思います。もう一点、先程のニーズ調査の15ページの母親が休んだ。というところがあります。病児・病後児保育を利用したという数字ですけれども、これは、病児保育事業の認識不足ではないでしょうか。

【事務局】病児保育事業の利用者は、八千代区の児童はほとんどいません。西脇市や南のほうの病院や八千代区内の医院に行かれることが多いのではないのでしょうか。統計上そういう傾向になっています。病児の町内児童の受入要件を撤廃しましたので、逆に丹波市からの利用者があります。八千代区の方は、どうしても、南に行かれる傾向がありますので、私が聞くところによりますと中区に行くとなると、奥に行っているそういうような感覚があるようで、南の西脇市等に行かれるようです。そういうこともありまして、中区、加美区そして丹波市の児童が利用されていることが多いです。こういう傾向は、以前から顕著に表れています。

【副会長】西脇市の〇〇小児科に行かれることが多いのでしょうか。

【委員】病気等で病院等に行くときでしょうか。そうですね。奥に行くより、南に行くことが多いです。

【副会長】今、山口先生が病児保育事業を一手に引き受けてやっておられますけれども、それも、もうちょっと町外にもそういうところがあって、多可町の児童がそちらにお世話になれる。そういうところがあれば良いのですが。

【事務局】西脇市の〇〇こども園さん病児保育事業されていますね。

【委員】はい。されていると思います。

【事務局】そのこども園さんで、町外の児童も預かっていただけるのであれば、利用され

るのも一つの方法だと思います。

【副会長】もっと山口先生の知名度を上げることがこれから重要ではないでしょうか。丁寧診察されて、いろんな研究もされておられますし、そのほかにも力を入れていただいておりますから。

【事務局】以前から、八千代区の児童につきましては、利用が少ないことは実績としてありました。

【副会長】あまりにも、困っておられるにも関わらず、病児保育事業を利用されていない方が多くて気になりましたので。

【事務局】病児保育事業につきましては、子育て世代の方に一層周知させていただきます。

【会長】せっかくいいお医者さんがおられますので活用するのは良いことだと思います。病児保育事業を知っておられる方も少ないと思いますので、子どもが病気のときは、自分で看ときたいと思いますし、そのほうが普通かなとも思います。周知することは、大事だと思います。南に行かず、上のほうに行ってください。他にご意見やコメントはありませんか。

【事務局】資料17ページ以降を説明。

【事務局】青少年体験活動事業（長期休業中）「夏チャレ」がありますが、その中に「抽選」という言葉がありますが、本当に公平な抽選で決めているのですが、表現的にどうかと思うのですが、いかがですか。

【委員】本当に抽選です。人気のある行事に兄弟姉妹で参加しようと思うと難しいので、人気のなさそうなものに2名で応募しています。

【事務局】文言を検討させていただきます。

【事務局】36ページの自然学校推進事業については、食物アレルギーなどのケアが必要な児童が増えるにつれ、引率指導員等の確保が難しくなっている。とあるのですが、委員こういうケースありますか。

【委員】まれですね。

【委員】長期宿泊体験を通して、人間的に成長して帰ってきた。そちらのほうが大きいと思います。ただ、例えば1人でもそういう子どもさんがおられた場合は、その子どもさんのケアは大事ですし、ものすごく気を使っておかなくてはいけません、そのために全体がということはないと思います。

【会長】どちらかというところによって力がついて帰ってきてくれたら、目標にあるような子どもの育成を中心に書いていただきたらと思います。ただ、課題ですとそのリスク管理などの個別対応があります。そういう表現にさせていただいたと思います。

【委員】この自然学校に限らず、通常の学校給食でもアレルギーの児童はおられると思うのですが、多可町ではどれぐらいの児童がおられますか。

【教育長】20名ぐらいです。個別に対応するというのは、自然学校に限らず、すべての

ところで対応しておりますので、これを特に課題として上げることではないと思います。

【会長】今の計画に書いてあるところは、課題が多いというか各課ばやきに入っている印象がありますので、せっかく夢を見て計画しているのに、ええところを書いてもらったらいいと思います。「夏チャレ」についても、人気のプログラムですとかという表現のほうが大事だと思います。参加をもう少ししやすくするような工夫をするなどを入れるのが良いと思います。どこの課も少子化ということを書かれています。課題ではあるのですが。

【教育長】今、会長が言われたとおり、現状と課題は全体的に見直す必要があると思います。

【会長】まあ、短い期間で皆さんから出てきたものをまとめただけですので、いろんなところで揃っていなかったりしています。ざーと見て何かありますか。

【事務局】調整させていただきたいと思います。

【会長】前向きなところ2／3、課題1／3ぐらいにさせていただいたらと思います。

【事務局】37ページの「敬老の日作品展」ですが、高齢者を敬う優しい心を次世代につなげるとともに、「敬老の日」発祥のまちというオンリーワンの地域資源を全国にPRすることを目的に実施しています。としていますが、これに、敬老会、おじいちゃん・おばあちゃん子ども絵画展、敬老の日の歌を入れたらどうかと聞いているのですが、いかがでしょうか。

【会長】入れたらいいのではないですか。絵画展は、加東市からも出展しています。

【会長】兵庫県がされている「多文化共生サポーター」の派遣実績はありますか。

【教育長】兵庫県からの派遣実績はあります。

【事務局】この計画がだいたいまとまりましたら、概要版を作成したいと思います。

【会長】説明ありがとうございました。現状と課題は見直していただいて、次回に完成したものを皆様に微調整、承認いただいて、定例教育委員会そして、議会で説明させていただいて、パブリックコメント、印刷、3月に製本して、4月から実行するということです。次回が委員でチェックするのが終わりです。かなり、数字から文章から慣れないところで、大変だったかなと思います。

【事務局】もし、どこかお気づきの点がありましたら、遠慮なしに言ってください。

【会長】それでは、皆様から一言ずつお願いします。

【委員】もう聞くだけのことになってしまったのですが、内容のほうはなんとなくわかりました。

【委員】「夏チャレ」今年は事業が少し増えてましたよね。魅力的なものが増えていたと思います。いかに参加人数の枠に食い込めるか。参加者の兄弟姉妹枠があればいいと思います。

【委員】いろいろ数字がいっぱい、勉強になりました。奥にも行こうと思いました。

八千代区の方は病児保育事業をおひさまにこにこクリニックでされているのを知らない方が多いのではないのでしょうか。

【委員】 特になのですが、今、病後児保育の事業所がないのは申し訳ないと思います。

【会長】 これまで、努力いただいてありがとうございます。

【委員】 園としては、量が確保できるということは、定員が割れになるということですので、これからどうしていくかが課題です。

【委員】 教育・保育に関わる仕事をしていながら、知らない事業がいっぱいありました。名前は聞いたことはありました。町民の方も知らないということがたくさんあるのではないかと思います。知っていれば利用したのにといいことがあると思います。多可町はもっと住みやすかったのにといいような方がいらっしゃるかもしれないなと思いました。たびたび、少子化という言葉が至るところに出てきて全国的にそうだと思いますが、働き手がないとか、若い人が戻ってこないとか。それについて、具体的にどう考えていったらいいのか。なにかしら、先の見通しが明るくなるような、人ごとではなく明るい未来に期待できるような計画が立てられたらいいと思います。具体的に課題はいっぱいあるけれども、課題を解決するためにこう取り組んでいきます。というふうに、目の前のことだけではなく、長期的にそのためには、何かしら痛い犠牲もあるかもしれませんが、みんなで力を合せてやっていきましょう。みたいなものが見えたらいいなと思います。

【会長】 こういう会議にいくつか行っていますが、やっぱり最終的には、まちづくりのところの話になってきて、経済政策やみんなひっくるめて子育てかなと思います。あるところでは、盛り上がって、自分らが作られた計画を町長のところへ持って行かれたところもありました。本当はそんなことが良いかなと思います。少子化の文字がいっぱい出てきてしまっています。それは、わかっているのですが、そこをもうちょっと前に向いていける何かがあればと思いますし、この事業計画の中にある事業だけではなくて、他のことも本当は必要ではないかなと思います。計画のほうでは、町づくりを含めて町全体で取り組みます。ということも書いていただいたらいいかなと思います。

【委員】 私も聞かせていただいて、聞いたことがある事業はありましたが、ここまでされていたことがわかって、それも、妊婦さんのときからずーと、小学生、中学生になるまでいろんなパターンの施策を考えて、やっていただいて心強いなと思いました。貧困家庭とかいろんな家庭がある中で、その方が卒業されて就業、就職にまで繋がるのかな。子ども・子育て会議では、ここまでなのかもしれませんが、ここから先は、どういう施策、どういう手だてがあるのかな。その先の施策があるのか知りたいなと思いました。

【会長】 ありがとうございます。子ども・子育て会議ということで、期間限定みたいなところがあって、たしかに、就業するまで、また、障がいを持たれたお子さんが1

8歳から20歳までの空白期間が実はあつたりします。そこを、地域でなんとかならないかなと思います。妊婦さんからこう見ますと繋がっているとわかりますが、簡単な概要版か何かで妊婦さんから中学生まではこんな支援がありますよ。こんな事業をしていますよ。というような、マンガ版のようなものができればいいかなと思います。

【委員】 日曜日、祝日に保育を希望されている方がいらっしゃる。その方のお子さんは、日曜日は一人で家で留守番しているのかな。とか、学童保育も高学年になると意外と行かなくなる。でも、お家の方は仕事に行ってらっしゃいますし、そういうところで、どういう過ごし方をされているのかなと、ちょっと気にはなりました。もう一点は、子どもの貧困という言葉が多く新聞にでていて、私も貧困というのが、どういう視点でどういうふうに見ていくのかな。どういうふう認識していくのかな。人数もですし、そのことがこの前からずっと疑問に思っているところです。多可町で子どもの貧困と言われたら、どういう貧困の方がどれぐらいいらっしゃるか。そういうことを少し思いました。

【会長】 ありがとうございます。特にこれからクローズアップされてくると思いますが、常にわかりにくいところです。なかなか直で聞けないところもあります。また、聞きたい人が答えてくれない。ということがあって、なかなか難しいところではあります。何か町として出されていますか。

【事務局】 現在のところ多可町では、出しておりません。近くの、他市町さんでは、アンケートを取られたりして、子育て支援事業計画に組み込まれたりする市町さんもあります。独自に貧困対策の計画を作られたりする市町もありますが、現在のところ、貧困対策のアンケートは多可町では実施していません。特に貧困といえますと一人親家庭とかが大変かなと思われるところがあるんですが、その事業を今、一人親家庭の施策は、福祉課がしておりまして、町の中でももう少し体制を整えながら、進めていかなくてはいけないと思っていますので、今後検討させていただきたいと思います。

【教育長】 議会でもよく多可町の貧困率はいくらぐらいかと言われますが、この貧困率というのは、国では、国民生活基礎調査という統計調査により、無作為抽出した全国の約30,000世帯から提出いただいた調査表から所得調査をし、全国の状態を推計していますが、多可町では現在のところ、就学援助などの認定率が何%というのは出せませんが、貧困率を出すための調査をしていないので、出せないのが実情です。個々の家庭の状況に応じて対応しているところです。子どもが困っている状況や家庭がお困りになっている状況がわかれば、個々に考えているのが、現状です。私たちが気づいていない部分があるのではないかと危惧しているところです。困っていると言われる家庭はいいのですが、そういったところはあまり言われないので、表面的にわからないこともあるのではないかと思います。今後は学

校、こども園と協力しながら、注視して相談をしながら、取り組んでいきたいと思っているところです。

【会長】何となく個別に事情がわかってしまうところがありますので、アンケートとか以前の問題で、周りのネットワークもしっかりしているので、その分、相対的にみて貧困かもしれないが、絶対的にみたら困ってなかったということがあるかもしれません。今後、ご指摘のように詳しく見ていく必要があるかなと思います。そういうことを想定しながら、ただ、現段階では計画を立てるのは難しいとは思いますが。非常にいい問題提起ありがとうございます。これから、重要になってくると思います。都会に行くともうちょっと逼迫していることが非常に多くて、小学校の担任が児童の家に夜行って、おにぎりを持っていかないで餓え死にするというような話を私はよく学生から聞くので、都会に行ったら本当にあります。この多可町の子どもは、そのことから思うと幸せだなと思います。

【委員】素案読ませていただいて、本当に子育て支援が手厚くいろんな取り組みをなされていることを改めて思いました。学校現場と繋がるものもあるので、今日勉強させていただいて良かったなと思えました。支援というものがいろいろなものがありますが、それは目的があって子どもたちが幸せに生きていけることまた、子育てが円滑にいくように支えていく。やはり子育てというものが、しっかりその家庭、家庭で、程度の差はいろいろ家庭の状況もあって違うとは思いますが、子育てがなされて、子どもがその中で豊かに育まれていくのではないかな。そういう部分をいつも我々も含めてすべての人が、こういう視点を持っておこなうてはいけないのではないかなと思えました。

【委員】本当にたくさんの事業があることに改めて勉強させていただきました。先程からでていますように、お父さんやお母さんが仕事にでられている間にいろいろな対策が講じられている。その仕事に行っておられる間に子どもたちがどういう生活をしているか、非常に気になるところです。子育てするのにどういうふうにしていったらいいのか、というような学習会、講演会という事業があがっておりますが、子育てに対する親の立場のあり方を考えていくような事業もこれからもっと必要かなと思います。いろんなたくさんの事業があり、私自身も知らなかったのも、町民の方にお知らせすることがまず、大事だと思います。一人でも多く多可町に帰ってきてもらうとか、呼び寄せるためには他市町村にも知らせないといけないかなと思います。多可町以外にももっとアピールしないといけないかなと思います。別の話ですが、人権学習の住民学習を担当する立場から言わせていただきますと全町の7%しか人権学習に参加されていないのはちょっと納得できないなと思えました。私の集落はもっと出ているとは思っているのですが。全体で見るとそういうところがあったりしますし、いずれにしましても、トータル的に考えると町づくりの中で考えていくべきだと思います。もっと縮めてきますと村づ

くりであったり地域づくりであったりの話になってきますので、一つでも魅力ある地域づくりや村づくりができていったらいいなと思います。

【委員】 こうやって見たらたくさん事業があるんやな。これが全部充実してできたら、すばらしい多可町になるだろうなという気はするんですが。先程から、少子化という言葉はあちこちで、でてきています。多可町だけではなく、全国的に少子化これはどうすることもなかなかできないことで、少子化を食い止めることは何も子ども・子育て会議だけではなく、全町的なことで、子育ての範疇で考えるなら、安心して子育てできる環境というものを整えていく。そのことが、少子化を食い止める一つの方法ではあると思います。しかし、実際少ない子どもの中で、その子どもたちをどう育てていくか、ということがこの会議の一番の目的かと思えます。そういう意見で先程言われておられました、外で遊ぶ子がほとんどいない。皆、家の中でゲームとかをして遊んでいる。そしたら、外に遊び場を作ればいいのか。遊び場を作ったとしても、そこに何人の子どもが集まるんや。もう、それは田舎の宿命やと思います。そういう場所へ行こうと思うと、1 km、2 km、ときによっては3 km、4 kmというところまで行かないと集まらない。やっぱりそうなると思えば逆に遊び場があっても子どもが1名、2名しかいなかったら、親も今の時代、心配やし、なかなか子どもの数が少ないところで遊んでいたら、危ない。それやったら、家の中におるほうがまだ安心だ。とそういうふうになると思えます。だから、そういう意見で、小学校の授業が終わった後の放課後こども活動は、非常にいいことだと思います。今はまだ、保護者が家に帰っても人がいないから集まっている。学校で放課後こども活動がある。そういう視点からもう少し離れて、家に帰っても一緒に遊べる仲間がないからあえて、小学校の放課後でみんなが遊べる場を積極的に作っていく。その中で、いろんな遊びができる。ゲームをしたり、宿題をするだけではなく、時には近くの山の中に登っていか。川へいこか。そういうものをしかけていく、そういうことがこれから必要なことかな。そのような気がしました。

【会長】 ありがとうございます。ただ、部屋の中で宿題だけさせるだけではいかがかというところですね。

【委員】 今回の計画の中の見直しの中で、子育てふれあいセンターが実施している事業を改めて見つめ直して、振り返るいい機会になったなと思います。24ページの平成30年度からというところを時系列的に見たときに、ニーズ調査が平成30年10月の調査だったと思うのですが、時系列的に書いていただいて、利用人数も増加していますので、さらに前向きな表記の仕方に変更をお願いしたいと思います。

【事務局】 はい。その辺り考えさせていただきます。

【委員】 それと、39ページの学習会、講演会のところで、心の声みたいなことを書いて

います。再度読み直して、違和感があったので少し検討します。

【会長】また、相談いただいていた原案を作っていたらと思います。子育てふれあいセンターは、来館人数も増えていいところになったなと思います。そこをアピールしていただいたらいいと思います。他に何かご意見ありますか。

【事務局】本日は、お忙しいところこの会議に出席いただきまして、ありがとうございます。皆様方からたくさんご意見をいただきまして、たびたび少子化という言葉がでてくる中で、現実的にはそうなのですが、多可町といたしましても少子化担当理事を今年度から配置しまして、なんとか、少子化解消に向けて何かしらの施策ができないかなということで、今、定住推進課を中心に移住・定住も含めまして、また、直近のアンケートを見ますと、結婚する若い人たちが少ない。中には、結婚相手に出会える機会が少ない。という意見があり婚活という事業も含めまして、また、子育て施策も含めて、今、少子化解消に向けて何の対策ができるか。役場庁舎内でも検討していますので、特に来年度予算に反映できるものがありましたら、次回の子ども・子育て会議にでも報告させていただけるのかなと思っています。その中で1つ、たくさんの子育て施策をやってますけれども、皆さん知っておられるかな。知らない方もいらっしゃるのではないかとということで、少子化対策の事業の中で、子育て関係の情報を今若い世代の方は、スマートフォン等のアプリで携帯電話をとおして気軽に情報を取得したいと思っていられる方も多と思います。少子化対策の事業の1つとしては、そのアプリを利用して運用した情報提供ということも考えてまいります。それができれば、携帯電話で子育て情報が見ていただけるかなと思います。来年度から必ずできるかどうかはわかりませんが、検討させていただいております。それから、子どもの居場所づくりということで、最近、小学校の放課後、学童保育に入所する人数が増えているところが課題かなというところですが、高学年になりますと子どもたちが安心して遊べる場所があれば、何も学童保育を利用しなくても十分かなと思うところがあります。先ほどおっしゃっていただいたように、子どもが遊ぶにしても隣が長距離だったり、子どもの数が少なかったりというところがありますので、こども未来課としましても、学校の放課後、子ども広場という事業で各学校の校庭とか体育館で地域の方々にお世話になりまして、自分の今までの遊びを指導していただいたりという事業も進めておりますので、そちらのほうも力を入れていきたいと思っております。どこまで、できるかわかりませんが、できるだけ推進していけるよう委員の皆様方にも是非、協力いただきますようお願いいたします。

【会長】ありがとうございました。

【教育長】いろいろ検討していただいてありがとうございました。会長にはいつも大事なところをおさえていただいている状況です。今、課長が申しましたように、子育てするなら多可町ということで、子育て世代の皆さんが多可町で子育てして良か

ったとっていただけるように、頑張ってやっていきたいと思っております。いろんなところで、ご意見を聞かせていただいて、それを取り入れていきたいと思っております。今後ともよろしく願いいたします。

【事務局】先程、子どもの貧困対策ということで、ご意見をいただきました。今、国からの資料を見ていますが、来年ぐらいから、大学や高等教育が所得によって無償になるなど一つはお金の部分があります。児童手当の増額の検討もあります。また、教育面では、学校にもう少し教員を増員することで、教育の支援を充実をしていくということが書いてあります。

【副会長】子どもが安心して、すくすく育てっていく、成長していける子育て支援事業。きめ細やかに充実してそして、濃い内容で進められています。それについては、私たちができることは、最大の力を出してこの計画がうまく進むように力を注いでいくことかなと思っています。話しがそれるかもしれませんが一つだけ、現在、虐待を受けている子、障害をもってこまり面のある子、子育て支援ではきめ細やかな計画は立っていますが、子どもの育ちの部分、虐待の面から言いますと、今、僕は虐待を受けている。困っているんです。支援がないので困っているんです。ということを自分から、発信できる。この人にだったら言ってもいいんだよ。この先生にだったら言ってもいいんだよ。ということが、子ども一人ひとりが理解していける。そういう、その子、その子の育ちというものをなんとかできるのではないのかな。先生であり、保育士さんであり、教諭であり、そこの部分。また、家庭であり、おじいちゃん、おばあちゃんの方であり、近所のおじいちゃん、おばあちゃんであり、誰でもいいから、誰か、僕は困っています。街を歩いていて今困っています。生活していて、僕、今、困っているんです。と言える子。そういうサインを出してもいいんだよということがわかる子に支援の中で、そういう話が聞ける場を設けるということも支援の一つの内容かなと思います。これだけ、支援がきめ細やかにされていることは、ありがたいなと思います。今日は、ご苦勞様でした。ありがとうございました。